

# そらこめ通信

No.62 2015年9月号

このたびは弊社の米をお買い上げ頂き誠にありがとうございます。日頃よりご愛顧頂いております皆様にはこの場を借りて厚くお礼を申し上げます。

一時は冷害が心配された北海道の稲作でしたが、最新の作柄概況では「平年並み」から「やや良」へと改善されてきたようです。8月中旬を過ぎると、圃場全体が少しずつ黄金色に色づき始め、稲穂もだんだんと垂れ下がってきました。長期の予報では、9月以降も比較的良好な天気が続くそうで、日増しに出来秋への期待が高まっております。

さて、沼田町の8月と言えば「夜高あんどん祭り」です。今では北海道三大あんどん祭りのひとつに数えられるこのお祭りですが、今年は8月28日(金)、29日(土)の2日間にわたり開催されました。毎年のごとくですが、今年も社長の子息である拓哉さんが商工会あんどんの中心選手として大活躍。年々祭りの参加者が高齢化する中で、周りの期待を集めております。

この「夜高あんどん祭り」は元々は富山県小矢部市のお祭り。沼田町の開祖「沼田喜三郎」氏の故郷のお祭りです。今から40年ほど前に、沼田町の観光の核になる催しとして、当時商工会長だった故吉住敏夫氏(名譽町民～今年5月3日に死去)を中心とした面々が、小矢部市を訪ね祭りの伝承を願ったのだとか。小矢部市から帰って約3か月で2基の大型あんどんを制作、1回目の祭りの開催にこぎつけたとのこと。今では沼田町の代名詞ともいえるお祭りになりました。

「祭りは町のカだ～！」が故吉住敏夫氏の口癖でした。来年は40回目の節目を迎えるこのお祭り。この先、祭りを継続するにあたり、町民の減少や高齢化など抱える課題が多いのも事実です。どちらにせよ、我々はこの祭りの行く末を最後まで見届ける覚悟が必要です。



コスモスの種植え～収穫時期を調整するために1回目の播種から数週間遅らせて2回目の播種を行っているところ(7月30日)



8月21日に撮影した圃場の状態～左から順番に「ゆめびりか」「おぼろづき」「ななつぼし」の圃場です



圃場で見つけた2匹のカエル君(8月21日)



沼田町夜高あんどん祭り～仲間と談笑する拓哉さん(中-右)と台車の上の拓哉さん



大型あんどん同士のぶつかり合い



最終日に盛り上げる参加者たち(8月29日)



「ゆめびりか」の圃場(8月30日)



「おぼろづき」の圃場(8月30日)



「ななつぼし」の圃場(8月30日)



「きたくりん」の圃場(8月30日)



「ゆきさやか」の圃場(8月30日)



「ゆきがすみ」の圃場(8月30日)



「ふつくりんこ」の圃場(8月30日)

日本穀物検定協会が毎年発表する米の食味ランキングですが、昨年度(H26年産米)における特Aランクは42の地域及び品種でした。これらには同じ品種で産地が異なるものは別のものとしてカウントされます。42の内、品種の数だけで言えば全部で16品種。全国的に作付が多いのはコシヒカリです。北海道では「ななつぼし」と「ゆめびりか」が特Aでした。面白い事に16品種の内、11品種が単語5つの名称でした(笑)

今後も、安全で美味しいお米の生産に努めますので、引き続きご愛顧のほどよろしく願いたします。

(株)空知こめ工房 ホームページ  
<http://www.sorachi-kome.jp/>  
 ブログ「生産日誌」更新中です

インターネットで美味しいお米!